

陸平通信

OKADAIRA

2026 年 10 月 1 日発行

編集・発行/茨城県稲敷郡美浦村大字土浦2359

美浦村文化財センター（陸平研究所）

☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471

Eメール:bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 127号

落語で江戸の文化にふれる



落語を目の前で見聞きしたことはありませんか？

文化財センターでは落語をとおして気軽に江戸時代の文化にふれてもらおうと年4回、好文亭梅朝さんによる「梅朝基礎落語」を開催しています。落語を聞いていただき、そのあと解説をする内容で、平成25年から始まり、9月6日（日）の開催で50回をむかえました。

当日は「寿限無」「死神」、そして100話目の「地獄八景」、三つの演目でした。参加者は楽しい内容と話術に引き込まれて何度も大笑い。次回は12月5日（土）午後1時30分からの予定です。演目は当日のお楽しみです。予約不要なので、どうぞお気軽にお越しください！

笑いは健康にも良いですよ。

陸平貝塚がNHKで紹介されました！



▲陸平貝塚・竪穴住居での収録（右端はNHK 増井キャスター）

NHK水戸放送局の夕方6時から放送「いば6」で7月29日（水）陸平貝塚が紹介されました。内容は陸平貝塚や縄文体験、遺跡ボランティア陸平をヨイショする会をテーマにしたものでした。後日放送を見た村外の方が陸平貝塚見学や縄文体験に来てくれました。

芋で命をすくった陸平が今は文化の宝庫なり（日和吟社俚謡集より）

夏の文化財センターあれこれ

文化財センターでは夏休み期間中、ゆっくり体験を楽しんで文化財に触れてもらおうと、さまざまな体験を企画しました。この夏の体験の様子をご紹介します。



▲綿から糸つむぎ
糸車を回しながら糸をつむぎます。



▲土器作り
大人も土器作りに夢中。



▲陸平貝塚の土器を手に持って模様をみたり、重さを実感。



▲さき織り。選んだ布を緯糸にトントンとはた織り。



▲体験でにぎわう文化財センター
みんなで楽しくまが玉作り。



▲繭から糸をとる
左手で回しながら右手で繭を扱う。難しい～。



▲綿の種切り
口クロを使えば簡単にワタの種が切れます。おもしろいなあ。



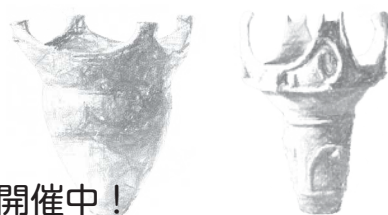
▲縄文クッキー作り
どんぐりを粉にするのは大変だけどおいしいクッキーができるよ。



▲「昔のはたおり」をテーマに展示
数十年前までは何でも手作り。糸から着物まで。すご～い。

陸平式と大森式—最初の土器型式—

陸平貝塚の特徴を示す土器（陸平式土器）と大森貝塚の特徴を示す土器（大森式土器）を見比べるミニ企画展を文化財センター展示室にて開催中！



見学の方からよく「明治時代にどうして陸平が発掘されたの?」「縄文土器に色々な種類があるのはなぜ?」「日本考古学の原点と言われている理由は?」といった質問が寄せられます。どの質問も陸平貝塚を理解する上で大事なことなので、今回ここで改めてお話ししたいと思います。



明治12年7月、当時東京大学の学生であった佐々木忠次郎さんが陸平貝塚を発見します。専門分野である動物学の研究に使う淡水貝の標本を集めに霞ヶ浦へ来た時のことです。佐々木さんは木原の川岸屋旅館に宿泊しながら、霞ヶ浦周辺で貝の標本を集めていました。滞在中地元の人から「安中の陸平には貝が沢山ある」ことを聞き、陸平貝塚の発見に至ります。

佐々木さんは陸平で“まるで雪が降り積もった”ような白いたくさんの貝殻を見て、これは昔の人が貝を食べて捨てた場所つまり「貝塚」であると一目で見抜きました。なぜなら2年前、佐々木さんはアメリカの動物学者、エドワード・モース先生と一緒に日本初の貝塚調査である大森貝塚の発掘調査に参加していたからです。貝塚とは何なのか、どのようなものが出土するのか、ということを知っていたのです。ちなみに佐々木さんはモース先生の最初の教え子です。

「貝塚」を知っていた佐々木さんは、霞ヶ浦での標本採集中、大森貝塚と同じような貝塚が近くにあるのではないかと注意していました。そうしたところに地元の人から陸平のことを聞いて、「きっと貝塚に違いない!」と確信したのだと思います。同じ年の8月、一年後輩の飯島魁さんとともに、日本人だけでの初めての発掘調査を陸平貝塚で行うのです。

なぜ陸平貝塚が調査されたのか

実は佐々木さんは陸平貝塚以外にも霞ヶ浦周辺で多くの貝塚を発見しています(阿見町、稲敷市、行方市、鹿嶋市、龍ヶ崎市で合わせて17ヶ所)。

佐々木さんの記録の中に「数ある貝塚の中で陸平貝塚が一番大きく、発掘調査に有望で興味津々です」という言葉が残されています。佐々木さんの中では、「大森貝塚のように様々な出土物が得られ、大森貝塚との比較研究ができる貝塚は陸平貝塚である」と考え調査を行ったのでしょう。陸平貝塚の調査にあたり、大森貝塚との比較研究は佐々木さんにとって重要な目的でした。貝塚から出土する様々な物の中で、土器が一番多く出土していますが、佐々木さんは、陸平の土器の文様や形、作り方などの特徴が大森貝塚のものとは異なることに気づきます。同じ貝塚から出土する土器の特徴がなぜ違うのか。この時はまだその理由がはっきりわかりませんでした。ただ「もしかしたら土器が作られた時代が違うのではないか?」と考えていたようです。その後、様々な研

究者が大森と陸平の土器の違いの理由を考えます。「貝塚がある場所が違うから」「土器を使っていた人種が違うから」など、色々考えられてきましたが、大森や陸平以外の貝塚の調査が進み、現在では土器が作られた時代が違うということが分かっています。

どうして縄文土器には色々な種類があるのか

それはそれぞれの土器が作られた時代が異なるからです。陸平の土器は今からおよそ4,500年前、縄文時代中期の土器です。大森の土器は今からおよそ3,500年前、縄文時代後期の土器です。陸平貝塚の方が古いことになります。

ところで「土器の特徴の違いが時代の差を示す」ということは、実は貝塚などの遺跡から出土する様々な物を通して昔のことを研究する「考古学」という学問では大変重要なことなのです。例えば、ある遺跡から陸平貝塚の土器と同じような特徴の土器が出てきた場合、その遺跡は陸平貝塚と同じくらいの時代に人々が生活していた跡ということが出来ます。つまりその遺跡の時代を知ることができ、歴史上に正しい位置を与えることになります。土器は時間を測る物差し代わりになるのです。

なぜ土器の特徴から時代の古い、新しいということが分かるかという、実は土器の特徴からだけでは分かりません。もう一つ大切なことがあります。それは、その土器が遺跡のどこから出土したか、という点です。例えば貝塚は縄文人が数百、数千年もの間食べた貝を捨ててできた人工的な地層です。その時、壊れた土器なども一緒に捨てられます。地層は下の方が古く、上の方が新しいということが分かっています。ですから地層の下の方から出てくる古い土器の特徴と、上の方から出てくる新しい土器の特徴を比べることにより、それぞれの時代の土器の特徴が明らかとなるのです。

こうした土器の特徴に気づかせてくれたのが、日本で最初期に調査された大森貝塚と陸平貝塚なのです。大森と陸平から出土した土器の特徴が偶然にも異なり、その違いの理由について明らかにするために研究が進み、今でも考古学の研究に欠かせない時代を知る物差しとして土器は大きな役割を果たしています。

陸平貝塚が「日本考古学の原点」と言われているのは、以上のような経緯があるからなのです。

陸平貝塚公園イベントのお知らせ

おかだいら縄文フェスタ2026

秋の陸平貝塚公園で
体験やオカリナコンサートを楽しもう！

会場：陸平貝塚公園（美浦村大字土浦 2359 番地）

予約
不要



みんな来てネ！
陸平で
まってま〜す！

10月10日 土 体験の日

【時間】10:00～15:00

【体験メニュー】

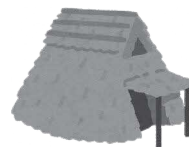
縄文土器、土笛、縄文クッキー、まが玉、花炭、火おこし、弓矢、抹茶体験ほか

【陸平貝塚見学ツアー】

11:00～、13:00～

★復元竪穴住居の燻蒸（午前のみ）

※雨天時は内容一部変更する場合があります。



10月11日 日 縄文の森コンサート ～オカリナコンサート～

【開演】13:30 【開場】13:00

【出演】ベル・スオーノ オカリナアンサンブル

音域の異なる様々なオカリナで童謡や唱歌、ポピュラーソング、映画音楽など奏
でます。ぜひご来場ください！入場無料。



参加者募集

はたおり講座

昔の機織り機を使い、糸をかけて織るまでの過程をとおして、昔の暮らしを知る体験です。

【実施日】全14回(12月4日～3月12日の
金曜日※年末年始を除く)

【時間】13:00～16:00

【場所】文化財センター

【募集人数】4名(定員を超えた場合、抽選)

【参加条件】美浦村在住者で全回に参加可能な方

【体験料】1,000円

【申込】10月31日までに文化財センターへ

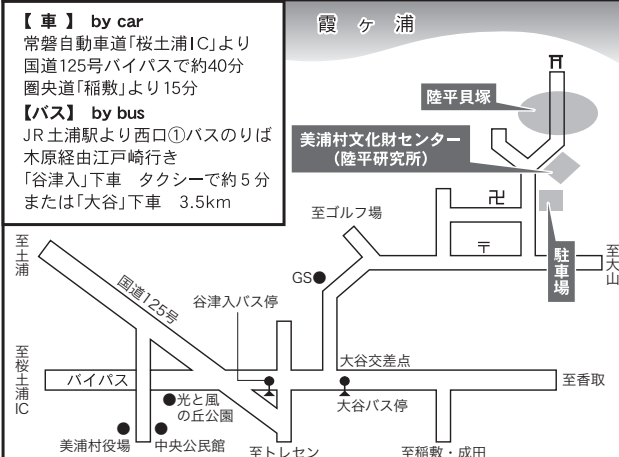
陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】by car

常磐自動車道「桜土浦IC」より
国道125号バイパスで約40分
圏央道「稲敷」より15分

【バス】by bus

JR土浦駅より西口①バスのりば
木原経由江戸崎行き
「谷津入」下車 タクシーで約5分
または「大谷」下車 3.5km



<体験の申込・問合せ先・おかだいら縄文フェスタ会場>

美浦村文化財センター

美浦村大字土浦2359番地／☎029(886)0291